

あとがき

知・情・意というともまず思い浮かぶのは、夏目漱石の「草枕」という方が多いと思う。あの「山路（やまみち）を登りながら、こう考えた。智（ち）に働けば角（かど）が立つ。情（じょう）に棹（さお）させば流される。意地を通（とお）せば窮屈（きゅうくつ）だ。兎角（とかく）に人の世は住みにくい」という一説はリズム感があり、内容はわかりやすく、しかも非人情や即天去私とに関連する深い哲学的思考が背景に感じられ、漱石ファンの中でも特に人気が高い。カナダの天才ピアニスト、グレン・グールドも死の直前まで「草枕」の英訳文を枕元に置いていたほど愛読していたという。ラジオ放送での、グールド自身の朗読テープも残っている。この概念は漱石がロンドン留学の時に読んだアレキサンダー・ペインの本に書かれていたものである、という説もある。ペインは哲学者である。いずれにしても人の心に生まれる知・情・意機能は、漱石の時代にはもちろんのこと、つい最近まで文科系学問領域で語られるファンクションであった。

ところが本号の特集は「知・情・意の神経学」である。脳機能を扱う本邦最高峰雑誌である本誌でこの特集が組まれたことは、実に感慨深い。英語特集タイトルは“Neurology on Intellect, Emotion, and Volition”としたが、本号の執筆者も intellect を intelligence としたり, volition を intention としたり, さまざまである。この部分はあえて統一せず, 著者の用いた用語をそのまま使用することにした。執筆者の語感をまず尊重したかったからである。ちなみに、ペインの本には, intellect, emotion, volition という用語が一番多く使われていることも付記しておく。

個人の「知・情・意」は互いに代償したり, 干渉したりして, 自分以外の大勢の人が形成する社会との調和を図ろうとする。この機能を「社会的認知機能」という。こちらには神経経済学, 神経倫理学など新規の学問領域が含まれ, やがて神経科学の大きな潮流として流れるはずである。本誌が他の雑誌に先駆けて, 「知・情・意」研究特集を組んだことには大きな意味がある。

(河村 満)

編集顧問

生田 房 弘
臺 弘
大友 英 一
金澤 一郎
近藤 喜代太郎
酒田 英 夫
佐野 圭 司
島津 浩
杉田 秀 夫
高倉 公 朋
塚田 裕 三
中里 洋 一
彦坂 興 秀
平山 恵 造
藤澤 浩四郎
真柳 佳 昭
萬年 甫
水野 美 邦
柳澤 信 夫

編集委員

石塚 典 生
糸山 泰 人
岩田 誠
内山 真一郎
梶 龍 兒
川島 隆 太
河村 満
高坂 新一
作田 学
辻 省 次
寺本 明
中込 忠 好
中野 今 治
水澤 英 洋
(五十音順)

BRAIN and NERVE

(第60巻 第9号)

2008年9月1日(毎月1回1日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5% (配送料実費))

(2008年, 年ぎめ予約購読料 34,860 円(配送料弊社負担))

E-mail: bn@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/bn>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5701

(高瀬・山内・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 ㈱アイワード (011) 241-9341

広告申込所 ㈱丹水社 (03) 3561-1323

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2008, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は㈱医学書院が保有します。
- JCLS <㈱日本著作出版権管理システム委託出版物>
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は, そのつど事前に㈱日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。